

自己評価書

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取組を行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めてください。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

グループホームの自己評価は、各ユニットごとに行います。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日ごろの実践や改善への取組を示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支え合い	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取組の事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取組状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかにかかわらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に を付けます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取組内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	せんだんの里 国見ヶ丘3丁目グループホーム
(ユニット名)	北乃家
所在地 (県・市町村名)	宮城家仙台市青葉区国見ヶ丘3 - 146 - 2
記入者名 (管理者)	佐々木 園恵
記入日	平成19年6月10日

地域密着型サービス評価の自己評価書

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている		
2	理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		広報誌作成や毎年の事業所計画などを利用していきたい。また、地域推進会議等も活用したい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所との付き合い 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている		広報誌作成(回覧板の利用)
5	地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々に気軽に相談や遊びに来ていただけるきっかけ作りとして敷地を解放してのフリーマーケットを開催。		
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員1人1人が理解しケアの向上に努めている。指摘項目に関しては迅速に改善を行うように努めている。		
8	運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議参加メンバーの方々に入居者の方々と同じ食事を召し上がっていただいたり、外部評価の報告実施。また、地域住民としてどういった関わり方があるか、お話を聞ける貴重な時間となっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症老人をかかえる家族会の会合などに参加し、どういったサービスが必要とされているのか意見交換お行った。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は、積極的に行っていない。		今後勉強会等設けていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての講話参加。資料の回覧。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分に設け、ご家族が納得するまでお話し合いをするように努めている。		利用者や家族等の気持ちを汲み取りもっと質問しやすい関係作り。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話や行動などから感じ取り、カンファレンスで話合ったり希望があれば実施している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	健康状態は何か変化があれば、すぐにご家族へ連絡を入れており、面会に来られた場合には口頭にてご説明・報告を行っている。また、月1回近況報告を郵送している。		グループホーム広報を定期発行の予定。(6・9・12・3月)
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に相談窓口の掲示。また、面会時やケアプラン提示の時間を利用し意見を頂き、職員間で話し合いケアの向上に努めている。		職員間の話し合いの結果等を家族に公表していきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを密に行っている。また、月2回のミーティングを利用し、職員間での意見交換を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	突発な受診などにも迅速に対応出来る様、併設サービス勤務職員の協力をもったり、せんだんの里本体看護師とも連絡を密に行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	働きやすい環境整備や、職員1人1人とコミュニケーションを持つように努めている。また、利用者の影響がないよう、担当などの変更など迅速に対応している。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取組</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修・中堅職員研修など段階に応じた研修を実施している。また、外部研修などの参加は人数などの関係から頻繁には参加出来ないが、参加希望があれば積極的に参加してもらっている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている</p>	<p>宮城県GH協議会に参加し、他事業所との情報交換を行ったりしている。</p>		<p>他事業所への研修などを行っていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取組</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>特に機会は設けていないが他ユニット職員との交流(委員会活動)や、話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取組</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個人個人の能力を把握し、各々が責任を持って働けるよう業務分担をし、担当分野に関して担当責任者として行ってもらっている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>利用者1人1人のバックグラウンドを十分に把握、理解し気軽に話していただけるよう関係作りに努めている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>ご家族の気持ちを大切にし、来訪時は必ずお声がけし情報交換をし、気軽にお声がけしていただけるような関係作りに努めている。</p>		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・ご家族が必要としているサービス・支援があれば情報を提供し、対応している。		
26	なじみながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐに入居といった形ではなく、何時間かお茶を飲みに来ていただいたり、その方の生活スタイルを継続できるような方法で対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	1人1人の利用者を「人生の大先輩」として尊敬の念を持ち接し、生活のパートナーとし関係を築いている。		
28	本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちを大切に、何が一番利用者にとって必要な事なのか、またご家族に悩み、ストレス等を気軽に話し合える関係作りに努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族との時間を持っていただけるような、行事の開催。電話や外出など協力体制を整えている。		
30	なじみの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に遊びに行った際に近所の方に声をかけたりと必要に応じて対応できる体制作りに努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士がかかわり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り会話の橋渡しや関係作りを行っている。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	必要な場合の調整が可能な体制である。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を十分に把握し、ご本人との会話の中からも意向を聞きご本人らしく生活していただけるようにしている。またご家族からに情報収集なども行う。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・利用者・利用機関などからの情報収集を行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントの利用、日々の生活状況などを記録に残し利用者の状況を悪化させている健康状態や心の問題はないか慎重に観察している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のケアカンファレンスを実施し、利用者はもちろんの事、ご家族、必要な専門職と連携しケアプランに反映している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じたケアプランの見直し・立案を行っている。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に回覧のチェック欄を設けている。また、申し送りノート等で情報を共有している。月1回のカンファレンスで介護計画担当の職員が中心に実践や介護計画の見直しを図っている。		担当中心にケアプランを作成しているが作成にあたり、手順良い作成と、よりよい計画作成を目指し、勉強会の開催を検討中。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じる事が出来るよう、日々のケアで本人の希望を聞き支援している。隣接しているデイサービスとの交流を深めていくことで、要望時に協力体制が出来ている。		より具体的な利用者の要望を把握するために職員がマンツーマンでじっくり話をする機会を設けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティア団体主催の食事会への参加。町内会に参加し地域にグループホームの理解と交流を働きかけている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な支援があれば、対応できる体制可能。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	GH運営推進会議のメンバーの地域包括支援センターの方も参加していただいているので、協力体制あり。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の搬送先をご家族に確認済み、せんだんの里の看護師とも連絡を密にしている。また、体調不良時、直接主治医と連絡を取り指示を受ける。受診が必要な場合、付き添い、また、受診経過や内容などは、その都度ご家族に報告し希望をうかがっている。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者個人個人の状況に応じて、専門医の診察を受けている。往診専門歯科・協力病院を確保し、受け入れ体制あり。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	体調不良時など随時、せんだんの里の看護師と連絡を取れる体制になっている。		利用者の状況をまとめた、書式を検討中。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	お見舞い時など、看護師・医師から状況を確認したり、電話等でやり取りし退院に向けての準備・話し合いの場を設けて対応している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	せんだんの里GHの「看取りに関する指針」の把握。ケアプラン作成時に確認を行っている。本人のADLに変化が見られた際、その都度の話し合いの中で確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の変化に対応出来る様に、主治医・看護師・専門職との検討をしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	左記の状況があった場合の協力体制可能。		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない</p>	<p>利用者のこれまでの生活歴・性格などをご家族の方などから伺い、声がけ・呼び方などに配慮している。また、日々の記録の扱いには職員全員で注意を払っており、保管方法を統一した場所で行っている。</p>	<p>排泄に関する部分などでは(誘導時・衣類の汚れ)周囲に居る方、ご本人への声がけ時に不快に感じられないように配慮している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働き掛けたり、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>マンツーマンの関係で話せる事、皆が居る場所で話せる事を把握し状況に合わせて傾聴、お話している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している</p>	<p>起床・入浴・就寝など、個々のリズム、体調に合わせて介助、声がけなどを行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者のタイミングに合わせて美容室の予約、衣類の購入などを行っている。美容室の方ともなじみの関係になっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者1人1人の出来ること・出来ないことを把握し一緒にやっている。身体状況に合わせた食事の提供を行っている。</p>	<p>健康状況に応じた、カロリー・栄養バランスなどは配慮した食事の提供。</p>
55	<p>本人のし好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お茶の時間を設け、皆で一緒に楽しんでいる。おやつなどの品などは利用者と買い物に行った際などに選んでいただいたり、季節の物、手作りのものなどを取り入れている。</p>	

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排せつの支援</p> <p>排せつの失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排せつのパターン、習慣を活かして気持ちよく排せつできるよう支援している</p>	<p>その日の体調を考慮し、リハビリパンツ・パットの種類などを使い分けている。また、尿測(時間・量)や定時の声かけ、誘導、見守りを行っている。自立されている利用者の排せつに関しては可能な範囲で把握している。(気持ちに配慮し)</p>		<p>現時点よりも、その方に合った排泄の支援が出来るよう、排泄のパターン、タイミングをデータ化し、精度の高いものにしていきたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の体調、これまでの生活歴からタイミングを合わせた声かけを行っている。意思疎通の難しい方は体調・衛生面を考慮し入浴介助を行っている。また、入浴の難しい場合は部分浴での対応も行っている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>利用者の体調に合わせた声かけを行っている。また、自立されている方はご本人のタイミングにお任せしているが、状況に応じて声かけしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>主に買い物・食事(調理・配膳)、洗たく(たたみ方)、掃除(居室・フロア)など、利用者1人1人に合った役割を、その日の体調、気分に応じて配慮し行っている。お花、野菜を植えて水撒き収穫などを一緒に行っている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持ちたい、持っていないと不安になる方には個人用の財布を持っていただき、可能な限りでの管理を行っている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している</p>	<p>体調・気分に応じて、散歩・買い物などに行き気分転換していただいている。訴えのない方へも積極的に声かけしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出掛けられる機会をつくり、支援している</p>	<p>定期的なドライブ、温泉(日帰り・1泊)、外食など利用者、家族、職員ともに出かけられるよう計画している。</p>		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家族の声が聞きたい」「荷物が届いたからお礼がしたい」等。いつでも、使用していただけるようになっており、職員からも声がけし行っている。		
64	家族やなじみの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人のなじみの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族との時間を大切にさせていただき、何でもお話していただけるようなゆとりのある姿勢でたいおうしている。また、フロアにはテーブル席以外にソファ席を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及びすべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについてのマニュアルがあり、職員1人1人が把握している。		
66	鍵を掛けないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上からセコムをしようしている為、玄関・居室の鍵は全て掛けているが、日中は自由に出入りが出来るように鍵は掛けていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は目配りしフロアから離れる際は必ず職員同士で声を掛け合いながら対応している。夜間も、2時4時の定期巡視の他に所在確認、様子確認をまめに行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組をしている	生活観・利用者の状況に配慮しながら、職員間で危険物等の保管場所を統一している。		
69	事故防止のための取組 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	委員会やマニュアル、月2回の会議にて知識を身につけ、職員で情報共有し、意見交換などを行う事で事故防止に努めている。		職員間での声がけ・目配りを忘れずにしていく。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり、職員は全員めを通している。		定期的な訓練・講習会を行いたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	年2回、火災・地震を想定した防災訓練を実施している。(夜間帯を想定し、利用者も一緒に参加している)		地域の方々にも参加していただき、非難場所などの話し合い機会を検討したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況に応じて、ご家族に相談しながらケアを行っている。また、委員会を設けており、リスクマネジメント委員会において様々な課題を持ち寄り話し合いを行い、それを元に会議の際に話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル測定、利用者とのコミュニケーション、触れ合いの、表情や体調の変化に気づき変化があった場合は、看護師・主治医にれんらくし指示を仰ぐ。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人1人の服薬内容を把握し、処方された薬に関しては服薬方法、効果なども把握している。服薬介助の際は、名前、いつに服薬なのかを確認し飲み込むまで確認する。		薬の変更があった場合は、特に症状の変化に注意し観察を行っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働き掛け等に取り組んでいる	野菜や水分、適度な運動などを取り入れ便秘予防、改善に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、うがいの声かけをし無理のない程度で行っている。(夕食後は義歯洗浄の実施)		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3食の摂取量の記録と把握を行っている。また、せんだんの里の管理栄養士による勉強会を実施した。自身で摂取困難な方への介助、摂取量を把握し記録している。		管理栄養士による勉強会は定期的に行っていききたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出してからの手洗・うがいなど。他に關しては、せんだんの里の感染症対策マニュアルに沿って行っている。		勉強会の開催を検討したい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い置きはせずに毎日、買い物に出かけ新鮮な食材を使用している。また、使用したフキンなどは毎食後にハイター使用し消毒している。(まな板集1回。調理用エプロン使用。食材は十分に加熱する。)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前(外)と中にベンチを設置し、玄関前にはプランターに花を植え親しみやすさ、明るさを出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りや、日めくりカレンダーを置いたり工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やフロアにはテーブル席、ソファ席の他にも椅子を各場所に設置しており、自主的に利用される方も多い。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者には、入居される前から使用されていた馴染みのある家具などを持ち込んでいただいている。また、ご家族の写真や手紙などを飾られている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の際の換気を行い、10時と22時にフロアの気温・湿度をチェック、記入している。湿度が低い場合は、加湿器や洗濯物を利用し加湿している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の手すりの設置や必要な方に関しては居室にも設置している。また、夜間の足元や部分的な照明の設置。		
86	分かる力を活かした環境づくり 一人ひとりの分かる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなどには目印になるように花を飾ったり、居室の入り口には表札を掛けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りに草木を植えて、利用者の方々が楽しめるようにしている。(裏には畑を作っている)		ベランダの活用方法を検討中(洗たく物を干したり)

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる	ほぼすべての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼすべての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼすべての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出掛けている	ほぼすべての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼすべての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼすべての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼすべての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームになじみの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼすべての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼすべての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼすべての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自立されている方が多く、買い物・調理・ドライブ・歌会など明るい雰囲気の中で生活されています。「利用者主体」を理念に利用者自身の気持ちを大事にし、自分らしく生活していただけるように、支援を行っています。